

部落解放・人権西日本夏期講座6月22日（木）～23日（金）報告

伝道部長 司祭 フランシス 小林史明

＋主の平和！

梅雨のうっとおしい時期ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて、教区の伝道部は、「開拓伝道を含む伝道全般、社会奉仕などの業務を研究企画し実施する。また諸種の社会問題の研究、啓発等の業務を行なう。」（教区規定第3条第3項より）という仕事があります。毎年、各県の同宗連（宮崎の場合は、『同和問題』にとりくむ宮崎年宗教教団連絡協議会』という名称）の呼びかけなどがあり、第42回部落解放・人権西日本夏期講座は、ちょうど宮崎市を会場にして、6月22日（木）から23日（金）まで、開かれました。（来年は鳥取県米子市なので参加はむずかしい）

そのために、教区の人権担当者・阿万留美姉と伝道部長の私小林史明が参加しました。二日とも会場は2か所に分かれていました。そして、合計8つの講演がありました。次の通りです。

- 1日目、A会場では「長崎の非差別部落とキリシタン」「被災地における障害者支援」
B会場では「私たちの声を議会へ 女性を意思決定の場へ」「改憲・護憲の前にまず『知憲』」
2日目、A会場では「宮崎県における人権啓発事業の取り組み」「いのちと仕事 いのちをいただく」
B会場では、「宮崎における部落差別の実態」「孤立する若者と社会をつなぐ」

それらの中で、二日目A会場で後半に行われた、「いのちと仕事 いのちをいただく」という講演は、元熊本市食肉センター食肉解体作業員の坂本義喜（さかもとよしき）さんでした。

1957年熊本市生まれ。15歳で親の仕事だった食肉解体業の手伝いをはじめたが、1週間で辞める。その後、大阪の小売店での板前修業を経て熊本市内の大手小売店に就職。そこで現在の妻と出会い、結婚。子どもが小緒学校に入学する時に食肉解体業につく。原案者となった絵本『いのちをいただく』に出てくる牛のみいちゃんと出会い、動物たちの涙の意味を感じる。以来その涙の意味をたくさん子ども達に知ってほしいと講演活動を始める。

こういうプロフィールでした。

絵本「いのちをいただく みいちゃんがお肉になる日」（講談社の創作絵本）1400円＋税

ところがこの絵本は、読み聞かせの音声をつけたものがYouTubeに公開されています。皆様には、直接それを見ていただく方が、早いし、気持ちも伝わるだろうと思います。また、「いのちをいただく」で検索すると、他にも同じ絵本を紹介するサイトがありますので、ごらんになってください。

私は7月末に宮崎聖三一教会での「小中高生のつどい」で見せようと思っています。約10分です。

<https://www.youtube.com/watch?v=k0Wso-job18>

